

令和2年度第1回立川市第3次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第3次観光振興計画協議会
開催日時	令和2年8月21日（金曜日） 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市役所302会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 立川市第3次観光振興計画について 3. 平成31年度の実績値について 4. 戦略と施策マネジメントシートについて 5. コロナ禍における観光の現状について 6. アフターコロナ（ウィズコロナ）の観光戦略について
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第2次観光振興計画における目標値と実績値の比較 2. 平成31（2019）年度のイベント入場者数 3. 立川市第3次観光振興の戦略と施策マネジメントシート 4. 立川市第3次観光振興計画 5. 平成31年度第7回協議会議事録
出席者	<p>[構成員]</p> <p>会長 岩崎太郎、副会長 岩下光明、小野和久、都築諒、中田龍哉、穂積計人、及川卓也、木嶋雅史、鈴木義嗣、前田千歳、矢ノ口美穂</p> <p>[事務局]</p> <p>奥野武司（産業観光課長）、津崎政人（観光振興係長）、太田眞実（観光振興係）、岸田知裕（観光振興係）</p>
欠席者	嶋津隆文
話題提供者	なし
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	平成31年度の実績値、令和2年度以降の進捗管理方法、及び新型コロナウイルスに関する各関連団体等の状況について共有した。来年2月頃に、2回目の協議会を開催することとした。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

(会長)

本来であれば、オリンピックが終わって、メダルを取った人がヒーローになって、大騒ぎしている状況かと思いますが、現実にはなかなか厳しくて・・・そういった状況ですが、本日は完成した計画を元に、運用を含め、またウィズコロナも議題にあがっていますので、皆様と協議したいと思います。よろしくお願いいたします。

始めに、既に計画は出来上がっていますが、この先の協議会の目的、また、どのくらいの回数をやるのかなど、今後の進め方につきまして、事務局よりご説明いただきたい。

(事務局)

計画策定後の協議会の役割ですが、第2次観光振興計画では、計画を策定した時点で協議会の役割は終了となっております。戦略と施策の推進について、協議する場が設けられていない状況でした。実際に、第2次観光振興計画の進捗状況について、昨年度の本協議会で委員の皆様にお示しするにあたって、市内の関係者がそれぞれ行っていた取り組みを最終年度に確認するといった方法でマネジメントを行っており、計画期間の途中途中でどこまで進んだかの確認をしたり、関係者同士の連携について協議したりといった機会はなかった、というのが正直なところ。

そこで、第3次の協議会においては、計画を作っておしまいではなく、計画に沿った推進においても、協議会委員の皆様と意見交換をしながら進めていくことが望ましいと判断しまして、今回このような形でお声かけさせていただいた次第です。

年間のスケジュール的には、年度で2回程度、前年度の進捗の振り返りと、次年度に向けた取り組み等を協議するというので、今回は8月開催となったが、今年度中にもう1度、来年2月初旬ごろに2回目の開催が出来ればと考えております。

(会長)

今年度はもう1回協議会があるということで、よろしくお願いいたします。それでは、議題に入る前に資料確認をお願いします。

(事務局)

本日の配布資料として、本日の次第、「資料1 立川市第2次観光振興計画における目標値と実績値の比較」、「資料2 平成31(2019)年度のイベント入場者数」、「資料3 立川市第3次観光振興観光振興の戦略と施策マネジメントシート」、その他資料として、無事発行に至りました「立川市第3次観光振興計画」の冊子、「平成31年度第7回協議会要旨」をお配りしております。

2. 立川市第3次観光振興計画について

(会長)

それでは議題に入りたいと思います。まず、計画と実績値の資料をご覧ください。第7回までの協議会で素案が出来まして、その後にパブリックコメント、立川市議会を経て出来上がっていると聞いています。そのあたりの経過、何かご意見が出たかどうか、また多少の変更なども含めまして、完成版のご説明をお願いいたします。

(事務局)

まず、議題1の立川市観光振興計画についてご説明いたします。皆様のお力添えのもと、無事7月に策定発行ができました。ありがとうございます。

平成31年度の協議会后、策定までの経過についてご説明いたします。

3月議会に素案の報告を行い、そこでは特段議員から意見等はありませんでした。その後、4月に入りまして、4月10日から5月6日までの27日間パブリックコメントを実施しましたが、そこでも質問や意見等はありませんでした。その後、6月議会において原案という形で報告を行い、1件質問がございました。

6月時点では既に新型コロナの影響が社会に及んでおり、インバウンドはしばらく戻って来ないと予測されることや、消費や観光の在り方はローカルに落ち着くといった傾向が出てくるのではないか、その中で計画の変更を含めた見通しや現時点での事務局としての見解はあるか、といった質問内容でした。

これに対しては、観光振興計画協議会の中で委員の皆様と協議しながら、新しい生活様式の中で立川をどのように楽しんでもらえるか、お越しいただけるかを検討していくと答えております。

特段、内容の修正等を必要とするものではありませんでしたので、一部単純な語句の誤り等を直した経過はありますが、議会報告後、庁内での事務手続きを経て、7月に計画として正式に策定、発行した次第です。計画の経過については以上です。

(会長)

大きな変更はされていない、ということです。

3. 平成 31 年度の実績値について

(会長)

続いて、2019 年度の実績値の報告、ちょっとあまり見たくないですが、お願いします。

(事務局)

資料 1 をご覧ください。表上段の中央の平成 31 (2019) 年度実績値 (C) にある通り、すべての数字において目標を下回った状況です。数字を構成している JR 立川駅の定期外乗車数や公共駐車場の数値がダウンしていること、特に公共駐車場の利用者数については、駐車台数に 1 台当たりの平均乗車人数をパーソントリップ調査の数値を掛け合わせて算出していますが、その数値が 1 台当たり 1.45 人から 1.37 人に下がったことも要因の一つとして挙げられます。ただし、パーソントリップ調査の数値がそのままであったとしても、台数そのものも下がっている状況でもありました。

次に、資料 2 をご覧ください。平成 31 年度のイベント入場者数の状況です。イベント入場者数等は微減といった状況でしたが、国営昭和記念公園の来場者数、また公営競技事業における来場者数も減少していることから、こちらの数値を使っている観光客数も減少しています。

総じて、年度末の新型コロナウイルスの感染拡大が影響しているものと推測しており、その影響が通年で及ぶことが見込まれる今年度の数値では、相当な減を余儀なくされるものと考えております。

なお、観光にかかる指標の取り方につきましては、昨年度の計画策定の段階でも皆様から様々ご意見いただき、我々としても課題であります。こちらについては、新たに開設された施設等に数値の提供をお願いするなどの動きを随時取っている一方、全体的な整理については、現在商工会議所が中心になって行っている立川 MICE の運営母体となる組織が正式に動き出した後に、そちらと協議の上具体的な検討を開始したいと考えております。資料 1、2 の説明は以上です。

(会長)

私も JR の数値が気になったので調べたのですが、JR 東日本のホームページにも出ていますが、数えると 80%以上の駅で減少していました。そうすると、立川だけの要因というより、3月の新型コロナの影響なのかなと。間違いはないかなと。意外だったのは、定期の乗車人数は前年より増えていました。ということは、観光客というか、定期外で来られた方がかなり落ちたのではないかなと。今年度はもっと酷い数字が出るかと心配ではありますが、この比較は第 2 次の結果なので皆様の責任ではありません。私の責任です。このあたり、議会から何かありましたか。報告していますか。

(事務局)

前回では数値はまだ出ていませんでした。この数値については、新型コロナによる影響です。誰が、どの取り組みが悪いというのは言いづらいので、逆に今後どうしていくかという議論になるのでは、と思います。

(会長)

他に何か質問はありますか。こういう情報があります、といったことでも構いません。

—質問なし—

4. 戦略と施策マネジメントシートについて

(会長)

続いて、マネジメントシートをご覧ください。これからの私たちの役割は、こちらが重点になると思いますが、こちらの表を使って第 3 次観光振興計画の進捗を評価、チェックしていくということになると思います。説明をお願いします。

(事務局)

資料3をご覧ください。計画に記載した6つの戦略、それに紐づいた施策、主な取り組みというのを、今後このような形で進捗状況の共有、スケジュール管理、またこういったことができるのではないかというアイデア等の意見交換に使えるのではないかと考えております。本日は、現状で動きがある内容について、一部ご説明いたします。

まず、1ページをご覧ください。

「施策1-1(1)新たな観光体験プログラムの開発」においては、現在商店街連合会において企画している「商店街観光ツアー」について取り上げています。昨年度、地域のお店と観光スポットを巡るツアーを実施し、大変好評だったため、今年度も別のエリアで実施を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染防止のため、リアルなツアーの実施は難しいと判断し、今年度は市内で活動しているたちかわ創造舎の劇団員に地域のお店と観光スポットを巡る様子を映像コンテンツとして作成していただき、それをバーチャルツアーといった形で配信するといった内容で現在準備を進めています。

続いて、2ページをご覧ください。

「施策2-1(2)サンサンロード周辺エリアの新たなマネジメント手法の検討」についてです。②の「新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占有の許可基準の緩和」について、サンサンロードにおいて商店街の申請に基づき、1件実施しております。今後は、サンサンロード周辺エリアにおけるエリアマネジメントの可能性を探るための勉強会という形の展開も考えているところです。

続いて、3ページをご覧ください。

3ページが一番下「施策3-2(1)ブランドメッセージの活用」について、今年度広報課シティプロモーションが担当しており、12月までにブランドメッセージの候補を完成し、令和3年3月までに複数候補から投票形式で決める予定と聞いております。そのプロセス過程において、観光案内コーナーを使ったPRを実施する予定で考えております。

続いて4ページをご覧ください。

「施策4-1(1)観光ポータルサイトの構築」については、現状、市の公式サイトと言えるものとして、商店街振興組合連合会と連携して実施している輝く個店という事業があり、これは立川のいいお店、お勧めしたいお店を表彰する事業ですが、そういったお店と観光スポットなどを紹介する魅力発信サイト「たらった立川」というものがあります。そのほか、立川観光協会が公式サイトとして作っているもの、さらには今後整備が予定されている立川MICEの公式サイトなどが考えられます。これらのサイトを統合することは現実的に難しいと考えており、それぞれがそれぞれを補完する形で情報発信を強化するようにしていきたいと考えております。現在、「たらった立川」においては観光スポットをまとめて紹介するページが構築されていないため、来年度に向けて多言語対応のページを追加することを検討中です。

また、多言語対応を期待してGuidoor(ガイドア)という民間が運営するサイト、こちらは日本語で情報を掲載すると運営事務局の方でそれを無償で多言語化していただけるという話で、昨年度中に市の方で情報掲載をいたしましたが、半年経っても多言語対応している様子が見られないため、実質的に積極的な活用は難しいものと現時点では判断をしております。

続いて、5ページをご覧ください。

「5-3(1)観光振興のための自主財源確保」について、令和2年7月より、市内における撮影協力の窓口となる立川ロケーションサービスが設立され、既に活動を開始しております。6月ごろまではコロナの影響があり、撮影の話もほとんど入ってきていなかったが、7月以降は近場でロケをしたいという話が割と引き合いがきておりまして、撮影協力の依頼案件も複数来ており、今後、収益の一部が観光協会に納入されますので、観光振興にかかる財源確保につながっていくことが期待されているところです。

続いて、6ページをご覧ください。

「6-1(2)広域周遊環境の整備」について、行政区域を超えた周遊を促進するシェアサイクルについて、現在、交通対策課と連携し、調査・検討を進めております。今後の展開によっては、公共施設の一部場所貸しだけでなく、民地においてもポート設置の依頼等が行く可能性がありますので、

関係者の皆様でも、もしそういうお話があった際には、ぜひご協力をお願いしたいと考えております。

(会長)

こちらのマネジメントシートについて、何かご質問、ご意見はございますか。

私の方から1件。シェアサイクルで、かなり進んでいるというお話でしたが、概要としては民間事業者の仕組みを持ってくるような感じでしょうか。

(事務局)

民間のシステム、民間の展開しているプラットフォームの活用をして展開する形で調整しておりまして、行政区域を超えた利用促進も視野に入れているため、相互乗り入れができる事業者を選定していきたいと考えています。

(E委員)

戦略1「商店街観光ツアー」で、劇団員の方がツアーコンダクター、これはオンラインで案内する仕掛けかと思いますが、どういう仕組みというか、メディアというか、方法で発信する予定でしょうか。

(事務局)

リアルタイム配信ではできないため、前撮りしたものを編集し、YouTube等にアップして楽しんでいただくことを中心に考えています。現状、オンタイムでの配信ではないと考えています。

(H委員)

今のツアーについてですが、地域実証プログラムの募集が、この春の状況では募集をするのが躊躇われたので見送っておりましたが、なんとか年度の後半でプログラムの募集をしたいと考えております。都の支援策としてやれるのは、感染防止をしながら取り組むための支援、非接触の対応などを優先的にやっております。次のステージとして今始めているのは、ハード整備、ウェブサイトなど発信に向けての経費の助成ですとか、そういった補助金の関係から始めていて、なかなかイベントというのは、人を動かすのは難しいというのがありますが、地域実証プログラムについては、イベントというより仕組みづくりを試していこうという要素があるので、ある意味実験というか、そういったものは少し始めて行こうと考えています。

もう1つ。商店街観光ツアーでオンラインを取り組まれる、とありましたが、都の方では毎年まち歩きツアーをやっていました。都内各地の観光協会の皆様が取り組まれるツアーを「ぶらっ TOKYO さんぽ」というサイトにまとめていましたが、さすがに今年はリアルでやるのは難しいですし、オンラインツアーが盛んになっていますので、非営利の観光協会でもチャレンジしてみたいという声が多かったというのもあり、10月を目途にオンラインツアーの支援をやっていききたいと考えております。説明会も来週実施する予定で、説明会の方には、オンラインですが応募がかなりあります。こういった形で、ある意味これから新しい観光の在り方としてうまく定着していくのか、あるいは効果があるのかを検証しながら、ということでぜひ立川観光協会の方でも、もしご関心がありましたらチャレンジいただければと思いますし、立川の取組についても是非情報交換できればと思います。観光としては予想外の展開にはなってしまっていますが、このような状況下でも新しい取組をしながら、前に進めるといいなと思って取り組んでいます。

(会長)

立川観光協会も、ホームページのリニューアルで補助金の申請をさせていただいた。あと関連して、立川でもイベントがほとんど中止になっていますが、一部のイベントでは、映像で総集編にしてみたり、花火もそうだが、過去のまとめたものを映像で流せるようなことをしようということで、いくつかのイベントで進捗をしている状況です。映像で見せるのは今のところ、観光協会等その他の団体ではそのくらいですかね。他に情報ございますか。

(事務局)

今のオンラインツアーの支援の内容というのは、具体的にどのような形か決まっていますか。

(H委員)

まず、ツアーのコースなどの内容については観光協会で決めていただきますが、事前の撮影等は観光財団の委託する事業者が行います。単に映像で、リアルタイムで見るだけではなく、地域の特産品を事前にお送りして、その代金は頂こうと思っています。そのあたりは、おすすめのおいしいお菓子

とか、お酒とか、そういったものを送っていただいて、代金は商店の方々に受け取っていただく形になります。そういったツアーを実施するというPRも、ネット等を通じて行っていきますので、馴染みがない中でも集客はしやすくなるだろうと思います。

(事務局)

補助は満額ですか、それとも観光協会に持ち出しはありますか。

(H 委員)

持ち出しはありません。今回はあくまでモデル的にやるということで、参加者を集めるようなことも含めて財団でやります。参加者から参加費を徴収するということはできませんが、そのあたりは協会に負担はありません。

(事務局)

観光協会で、何か説明会などの動きはありますか。

(会長)

今年初めに補助金の打合せをやらせていただいたが、こういう状況になるとは思っていませんでしたので。リアルを想定していました。

(事務局)

後半からはまちの案内人も動くと聞いていますので、うまく使っていければ。香川県のバス会社がオンラインツアーをやっていて、地元の産品を送って、産品を食べながら映像を楽しめるというようなことをやっています。今回の商店街観光ツアーにもその情報提供はしていきまして、リアルタイムではないので難しいですが、地元の経済循環があるような形でオンラインを含めてやっていけたほうが面白いよね、となっていますので、情報共有させていただければと思います。

(F 委員)

第3次になって、半年に1回マネジメントシート使って評価や軌道修正などをしていこう、というのは非常に前回から進化した、いいところかなと感じました。

この事業展開案のところに載ってくる関係で、載せられていないけれどまちで起こっていることもあると思いますが、そのあたりは取り上げていく予定があるのかを知りたい。

(会長)

第3次の策定の際に第2次と比較したとき、やることを羅列したという経過がありました。市から依頼があったのは、立川市が主にやる取組、もしくは観光協会など近い団体がやることに絞ろうということになった。基本的には立川市が関わっている事業を載せていきます。新しいことを始めると載っていくと思うが、あらゆるところでやることを載せるということではないと認識していますが、事務局としてはどうでしょうか。

(事務局)

「市が直接」といいますと、委託、補助もありますし、観光協会が関わることもあります。ここでは我々がハンドリングできることを主にマネジメントしていくということで、民が100やっていることまでは、状況は把握しながら、主体となってどうやるかまではここでは考える必要はないかなと思っています。ただ、そのやり方も含めて、試行錯誤してやっていくようかなと思います。

(F 委員)

例えば、観光ポータルサイトや、市、観光協会、たらったのHPをやろうとするときに、立川は地域メディアが多く、そのコンテンツも合流させた方が、まちの人にとってはそのサイトに行く理由付けができるのかなとか思いましたので、そこはどうかなと。

(会長)

サイトは個々の運営が取り組みますので、協力するものと考えています。それはどのイベントも取組んでいくのかなと。ただ計画としては、市が管理できるもの。他の団体には制限がないので、その団体がどう動くか。

(事務局)

F委員の通り、「いいね立川」「立川新聞」「立川経済新聞」「まいぷれ」など、立川は地域メディアが多い、ある意味特殊なエリア。最近そこを見ていると、即時的というか、消費的な情報をどこも皆リアルタイムで、すぐさま掲載しているようなメディアが多いと感じており、またはそういった傾向

があります。一方、公的な市、観光協会のサイトでは、即時性、消費的な情報でなく、読み物、ストック的な情報に重きを置いて、メディアとしての価値を持たせるべきか、とも考えています。その動きを踏まえながら、公としてやることは何かと考えていますので、そういう動きも含めてディスカッションすべきと考えています。

(F 委員)

そうなる、この計画自体を市中のプレイヤーが、より多く、より深く理解してくれている方がやりやすくなっていくと思います。そのところは今のところないと思いますが、今後どうするつもりでしょうか。この計画を、市の人はどうやって普及させていくか。こういうことをやっていきます、とか。

(事務局)

イメージとして、立川は計画でこう考えていますというのを広く市民の方に、「どう思うか」と対話をしながらでしょうか。

(F 委員)

広く知ってもらえると、「これだったら手伝えるかな」とか。目標値を設定しているので、そのためにもできることとして、加速させることができるのかなと。

(会長)

個別の事業については、市報や観光協会等で周知はしては行っています。ただ、事業ごとで温度差は出てくる。今市報などは市民に訴えかけるような、紙面に載せるものが少ないので、そういう部分が多くなっている気がします。

(F 委員)

自分もその役割を担うべきなのかなと。

(会長)

市民の方にご協力いただく面が出てくると思います。いいアイデアだと思います。

A さん、MICE の進捗はいかがでしょう。

(A 委員)

いくつかここで言葉が出てきていますが、MICE については、来年度「立川コンベンション協会」という運営組織を立ち上げるため、「立川コンベンション協会設立準備室」というものを作りまして活動を開始したところです。東京都ともお話させていただいていますが、コロナの関係で実証実験の部分はかなり実施が難しい状況ですので、今年度準備室で中心にやるのは、事業計画を立てて、来年稼働させるための素地を作るという事と、ホームページ等の PR 活動の部分をやっていくということで、対外的な部分がなかなか残念ながらできませんが、アフターコロナ、ウィズコロナをどう考えていくかというのも検討が必要と考えています。

(会長)

2 ページにプロスポーツ連絡会との協議の記載があり、何も印がついていませんが、副会長の方で、プロスポーツ協会の動きは何かありますか。

(副会長)

今のところ、人を集めて何か、というのは非常にやりにくい状況で、本来であれば、花火大会の翌日にたくさんゴミが出るであろうから、団体とファンの皆さんを集めてごみ清掃をしながらスポーツ体験をするというイベントを企画していましたが、そういった人を集めてというのができなくなりました。そのため、今は「立川ダイス」で実験的にやっているのが、ファンを市内の店舗とつないで、ポイントをためることで色々なまちのものを活用できるようなファンアプリを開発することを検討中です。そういった形で、人を集めなくても、選手のステータスを使ってコミュニティを作れないかな、という事業をやってみるような形です。

(会長)

他にございますか。まだ始まりなので、これからどんどんと進捗に一杯印がついてくるのではと思いますので、よろしく願いいたします。

5. コロナ禍における観光の現状について

(会長)

続いて、先ほど議会からの質問もあったということですので、コロナの影響について、この計画にどのような影響を与えるか、皆様から情報提供、ご意見をいただきたい。

私も、観光協会や色々なところで「コロナの影響で何かを変えなくてはいけないか」という議論が出ていますが、東京都や国の方で、今まで歩んできた路線を変更しようというような議論はございますか。

(H 委員)

東京都の方から申し上げますと、今年度オリンピックがあるという前提で「PRIME 観光都市・東京」というものを作っておりましたが、オリンピックが来年に延期したということで、今年の内容がその通りにはできなくなったということで、今年記載してあった内容の大半は、来年におそらく持ち込むだろうという想定でいます。ただ、コロナ前に作った計画ですので、延期してもできない事業もかなりあると考えておりますので、ウィズコロナの時期にどういう形で観光施策を進めていくか、回復させていくのかを目下検討しているところです。

ですから、おそらくはコロナ前に作ったプランなり計画なりというのは、続けられるものはもちろん続けていきますが、かなり大きく前提が違ってきますので、この状況の中で出来ることを、ということで見直さざるを得ないと考えています。

(会長)

これからということですね。E 委員は、立川以外で、何かコロナについて計画を変更していこうですとか、新しい動きなどでお聞きになっているものはございますか。

(E 委員)

なかなか、どこも厳しい状況が聞こえてくる。明らかな成果、または成功事例というのはなかなか聞こえてこないが、今のポストコロナに関して、これからの状況を含めて、こういうことにトライしている、というような現象とか分析は少し聞こえてきますので、資料をまとめてきました。

インバウンドの誘客、来訪がすぐには期待できない。もしくはすぐどころではなく、今までのような考えでは期待できない時代に入るかもしれない、というのもあり、色々な自治体なり、色々なところが、インバウンド誘客から国内の誘客へシフトをチェンジしようというのでも進められている状況だと思いますが、何らかのアクティビティで観光に行きましょうというような、カテゴリで言うと GoTo 的な発想でアクティビティ的な観光行きましょう、というものとは別に、ウェルビーイングとか、ホスピタリティ、癒し、免疫力アップ、ヘルスツーリズムとか、ビーイング的な発想にシフトしていくことが、一つ大きな傾向かなというように思います。

また、朝の NHK のコロナ関連でありましたが、サーファーがいっぱい出てきて、働き手がリモートをしながらか、朝サーフィンを楽しむとか。通勤をするという状況から、生活スタイルがおそらく変わってきているのかな、というのでも観光の視点に活かせるのではないかなと。そういう意味で、近隣住民の立川滞在も一つのテーマになってくるのかな、というのをデータで出してみました。

これは、ある代理店さんが取ったデータで、企業の宣伝担当が今後消費者の生活様式をどうなると推測するかというデータで、今の変化した生活様式は元に戻らないとか、一部は残り続ける、といった方が多くいます。

内閣府のデータですと、テレワークの実施状況、各エリアで少し違いますが、全国ではテレワークをしたというのが 34.6%、23 区では 55.5%、立川は東京圏に入ると思いますが、東京圏では 48.9%がテレワークをしているという状況です。テレワークで、東京圏で一週間の通勤にかかる時間の変化は、明らかに減少しているという数字が出ています。通勤時間の減少を志向している人も多い。

テレワークと言うのは今後何らかの形で増えていく中で、観光のコンテンツによっては、ワーキング、地域の方が自分の暮らすまちに滞在し、なんらかのライフスタイルと仕事を両立するというポジティブな現象としても捉えてよいかと。

滞在スタイルの変化、3密を避けることがどういう現象を招くのか。少人数、個人、クローズドからオープンドの志向。その変化にどういうコンテンツを対応するかという視点。リトアニアでは町全体をオープンカフェ。これは緊急事態的なところもありますが。

もう一つは、訪問しない観光の取組。庄内町で、蔵元から事前にお酒を送って、届けた方々とオン

ライン上で飲む。

デンマークのフェロー諸島では、リアルタイムで楽しめるツーリズム。こういった形で新しい取組もあり、先が見えていない状況ですが共有できれば。

(会長)

D委員、国営昭和記念公園はどうでしょうか。

(D委員)

なかなか重たい部分。4、5月は休園しましたが、この期間は約120万人が訪れているので、市に訪れる人も120万人減ってしまっているということになる。公園に求められるものを実感しています。

今後の対応としては、公園で完結することなく、都、国の施策とにらめっこしながら、やれることをやるしかない。3密回避が条件になり、非接触型のありようにもチャレンジしないとイケない。

5月の休園期間中にアプリを開発し、先日発表しました。キャラクターが「コロニヤ」という名前ですが、コロナが流行する前に決めたもの。人と接することなく遊べるコンテンツを提供しています。比較的大きなイベントについては、ルールの中で対応しています。

コロナの関係で、比較的安全な場所としてご利用いただいているのを実感しています。空いている時間と場所を選んで利用していると見えています。一部のお客様からは「マスクをさせろ」という意見も来ていますので、今後どうなっていくのかも見ながら案内をしなければと思っています。

(会長)

G委員、インバウンドは苦しいでしょうか。徐々にアジア圏については解禁になると聞いていますが。

(G委員)

私がインバウンド関係の仕事をしたのは、3月上旬が最後。それ以降は一切ありません。キャンセルが3月、4月上旬にありましたが、それ以降は全くありません。オリンピックも延期でなくなり、休業支援金なりでなんとかお金は頂いていますが、本業も全くありません。

今のところ、来年五輪があるという体で準備はしていますが、それがまた無くなる、もしくは延期するとしたら、ちょっと考えないといけない。あとは、外国人問わず、地域内、立川周辺でなんとか盛り上がることを考えたほうが良いという状況。まあ、この地域は幸いにもまだインバウンドの影響は受けていないと思いますし、計画もインバウンド比率は少ないので、煮詰めるのは期待できるのかなど。状況に応じて、皆さんと考えていきたい。

(会長)

インバウンドの4,000万が0だと、えらいことですよ。

(G委員)

スポーツイベントなどがあればいいのですが。

(会長)

RISURU ホールは、やってはいますよね。グリーンスプリングスも始まっていますし、徐々に入ってこられるようにはなっているのですが。B委員、青年会議所はいかがでしょう。

(B委員)

今月は感染の状況を見てですが、8月は全事業をウェブに切り替えまして、9月からは、我々はハイブリットと呼んでいるのですが、仕事の関係によって異なるため両方の環境を準備する、ということで準備はしていますが、会食などは控えてやらせてもらっている状況です。

9月25日前後に、青年会議所の全国大会というのが北海道で予定しておりまして、そちらもホテルが取れなくなるなどの諸事情があったりしまして、ハイブリットがありつつ、観光促進と言うところでお土産を郵送する形でなんとかやろうと進んでいますので、年内はハイブリッドのものを進める、という舵取りをしています。

(会長)

前回、事務から川越の話を聞きまして、成功して人数増やしたが、今シフトしているということだ。

(事務局)

E委員のおっしゃったとおり、地域の方が新しい地域の楽しみ方を楽しんでもらうようなマップを

作って、地域を楽しんでくださいという情報発信をしています。

(会長)

そういった地域の情報を持っている方、いらっしゃいますか？F委員はITの世界ではどうですか。

(F委員)

この数か月すごく忙しくて、テレワークの環境を急速に整備するために全員に配れるパソコンや、ネットワーク整備をしてくれとか、そういったところを対応していて、社会の変化をダイレクトに仕事で感じて過ごしていたというところ。自分たちが、計画というか、企画をしているところだと、立川から都心への方向性でなくて、山梨とか長野とか、あずさでもいける、そちら側に向けたテレワーク環境の整備というか、そういったところを働き方としても整備して、家で働くのはなかなか難しいところがあり、そういったメンバーもいて、都心だと難しいねとか。長野、姉妹都市に大町市もあるので、そういったところが今こそ連携できたりしたら、意味が出てきたりするのかなと。

(会長)

テレワークではなくて？

(F委員)

コロナの対応があるので、自分たちがいない所を自分の拠点とどう結びつけるのかと話に出てきた。23区と絡まないシステムというか、そういった仕組みをつくる取り組みが必要かなと。

(会長)

今の話でいくと、新宿が一番感染者数が多いですね。多摩地域と危機感は違うのでしょうか。

(H委員)

地域と言っても、例えば島しょ地域も、すべてが警戒しているわけではなく、観光産業は誘客に踏み切りたい、一方で市民は反対したい。島だけでなく、そういったことはこの地域でもあると思います。比較的立川や新宿と言った街場は、工夫されて商業活動は比較的やっている方だと思いますが、人手や消費もかなり落ちている状況なので、そういう意味ではどこの地域においても、経済活動をどうするかは大きな問題と認識しています。

そういった中で、若干島しょ地域では、今後は団体旅行がなかなか見込めないということもあり、ロングステイに踏み出している地域もあります。八丈島がキャンペーンをやっており、滞在を長くすればするほど割引率を上げるようなことを始めています。小笠原や他の島でも、パッと来てパッと帰られる方がむしろ感染という意味では怖いので、リピーターの方に滞在してほしいということでロングステイに踏み出すという動きも出ています。西多摩地域でも、同様のことがもしかすると有り得るかと思いますが、その地域の特徴にうまく合わせた新しい観光の在り方を、どこも模索している状況であると思います。

(会長)

少しまとめに入りたいですが、今の状況ですと、計画自体を変えるのは時期尚早かという気がしますが、各施策についてはウェイトの置き方、外国人対応は少し遅らせて国内を重視する、というのが影響かなと思う。あとはやはり、五輪があるのかないのか。これがうまく開催できれば、意外と日本人は忘れてしまうので、「コロナあったよね」みたいな形で増えていくのかなという気がしています。

2011年には、東北の震災で放射能の問題があって、東京から外国人がみんないなくなりました。電車乗ってもいないし、都心に行ってもいないし。その時を調べると、インバウンドが600万人くらい。その前の年が800万人でしたので結構落ちたのですが、その次の年は800万に戻って、その後2,000、3,000万といったので、コロナの終息が見えれば、戻るのにそんなに時間はかからないのではという気もします。世界的な流行という違いもありますが、計画の変更というのであれば、五輪の有無が決まったタイミングかなと思いますが、市の対応としてはどうなりますか。

(事務局)

内容的には、インバウンドのポートフォリオはそこまで多く見積もっていません。1.3%から微増できれば、くらいの心持ちでしたので、インバウンド関連の影響は大きくないと思っています。多摩地域がおよそ8割というデータがあり、都心、広域からどう引っ張るかが課題にありましたので、そういった意味では、計画の内容を変えるというよりは取組内容、対応を変えるのかなと考えています。

現在グリーンズプリングスという北口の大開発が終了し、施設もオープンしていますが、その方からは、コロナの影響もあると思いますが、現状世田谷・杉並のあたりから多く来ていると聞いていますし、たまった立川のインスタグラムを7月に開設したところ、フォロワーも立川の次が杉並でした。グリーンズプリングスに来た方がフォローしているのかな、と予想はしていますが、そういった傾向が見て取れています。ですので、いかにインバウンド以外を持ってくるかというのを考えていくことと、マイクロツーリズム、地域の方にどう楽しんでもらえるかということ、まずは短期的に何ができるのか考えているところです。

その中で、昭和記念公園の最近の取組を見ていると、シャボン玉を飛ばしたり、どこでもドアみたいなものを置いたりなど、フォトジェニック、まさに個人が個人の時間に合わせて公園を楽しんでもらうような仕掛けを意図的にしているのではないかなど。私も実際に楽しんでいます、そのあたりは戦略として考えていらっしゃるのでしょうか。

(D 委員)

ツアーや大きな動きを誘致する、結果的にそうなってしまうのですが、大々的に積極的にCMできない状況の中で、普段使いで感じ取ってもらう気付きとして、インスタ映えする場所の紹介を取り組んでいるところです。夏は試行段階で、秋に向かってちょっと加速させていきたいと考えています。ただ、あまりやりすぎると密な状況を作ってしまう状況になるのではないかと、立川にたくさんの人を呼んでしまってどうだろうか、ということ、空気を見ながら度合いを考えたい。今年プールを中止して、約15万人のお客様に来てもらっていましたが、プールを除いた公園利用者数は昨年と比べて150%以上になっています。実感としては、お子様よりも、少し若めの方々、子育て世代の若い方々がすごく増えている気がします。それは、お向かいの話もありましたが、両方見ていただいているのかなという感じで、実感しています。

(事務局)

秋の夜散歩も、これから注視しながら検討ということですか。

(D 委員)

基本的には、お緑イベントと言って、長期の花の見ごろに合わせたイベントは、冠をつけてそのまま実施したいと考えています。昨年からはじめた紅葉のライトアップも、基本進める方向で協議しているところです。

(会長)

副会長、立川の街の様子はどうか。やはり人は大分少なくなって、店も苦しいのでしょうか。

(副会長)

確かに人は少なくなっている気はします。全体的に、私はこれから先の観光に3つのキーワードがあると思っています。

まず、インバウンドからマイクロツーリズムであるとか、アーバンツーリズムにスイッチしていくべきだろうなと思っていて、計画の中にも謳った非日常から異日常というところが、もっともっとクローズアップされなきゃいけないですし、そうなるのかと思います。

リアルとバーチャルが融合していくべき。ただ単にYouTubeを見るだけでなく、商品もそこにあるという、リアルとバーチャル。補助があれば実施したいと思っているのが、立川市の野菜を売っているお店があるのですが、その食材を配送して、それを受けた人が地元の有名シェフの料理教室を画面上でやりとりしながら、例えば立川カレーを作るとか。そういったリアルとバーチャルを繋げた観光振興もこれから考えていかなければいけないかなど。選手のリストバンドにマイクロカメラをつけて、普通には見られない選手目線での動画が見られるサイトというものなども、実験したいというのをアリーナと話をしているところですが、そういったところへの補助があれば。花火もただ見るだけでなく、ドローンを飛ばしてすぐそばで見られるとか、そういった映像でないと皆様関心を示さない。

もう1つ、補助金から規制緩和と自立支援へと思っています。先ほどのオープンカフェも、なかなか民間で歩道を使用しようとするの大変です。そういった規制を緩和してもらうなどの支援してもらえれば、あとの運営は自立してという責任も持てます。

コロナは悪いことばかりではなく「多摩は逆にチャンス」と言っている私の周りの若い人もいます。

都心から多摩を楽しみに来ている人も増えており、そういったところを迎え入れる体制も、今後増加にできるような観光対策になるのではないかと、思います。

(会長)

事務局としてはどのような考えですか。

(事務局)

インバウンドに重きを置かなくて、正直良かったと思います。功を奏したと思っています。皆様に色々アイデアを頂きながら、ポートランドではないが、住民主体のまちづくり、民間主導のまちづくりに行政支援を組み込ませるまちづくりにしていければいいな、そういった方向性にもっていければと思います。規制緩和については、サンサンロードだけでなく、道路区域について道路管理者、交通管理者等と協議していく中で、商店街エリアの道路は安全面で空間を使うのが、前に進めるのは難しいと思いました。しかし、サンサンロードについては、現在アカリカフェが使っていますが、中央地帯のエリアなども、誰が管理するか、誰が掃除するか、そこにどう経済が回るようになるかの仕組みを作ることができれば、道路管理者、交通管理者も、この中においては安全安心なパブリックスペースとして使わせてくれそう、という感触は得ています。街場の方々に、こういう風に使いたいという絵が描くことができれば、サンサンロードについてはチャンスがあるのかなと、そういう時期なのかなと考えています。

あと、施策の中で説明しませんでした。市民参加の観光ということで、市民を巻き込めないかなと思っていて、まるっと中野だと市民ライターがサイトに投稿するといったこともありますが、今後、動画を市民が撮影して投稿してもらい魅力を伝えるようなプラットフォームができないか、とおぼろげに今考えているところです。フォトジェニックなところは、昭和記念公園がかなり頑張っていたのもあり、市域の魅力的な情報がネット上にたくさんありますが、今後動画媒体で展開できないか、市民を巻き込みながらできないかと思っています。

(会長)

お時間も迫ってきましたが、他に何かございますか。

(事務局)

MICE について、集団を誘客して地域経済活性化ということに取り組んでいたと思いますが、集団というものがアウトなトレンドの中で、東京都はどう考えていますか。

(H 委員)

MICE は今一番ハードルが高い。MICE の誘致のメリットは、かなりの人数で東京を訪れてもらえるということでの経済効果が非常に大きかったのですが、海外の行き来が全くない上に集まること自体がリスクなので、国際会議がオンラインに移っています。そうなった場合、オンラインを支援するのかということで、東京に来てもらわないとお金は落ちませんが、とはいえ国際会議、大規模会議の支援をしなければ開催自体できないということもあり、そこが非常に課題です。

それから、インバウンドに関しても、入国制限があるのでなかなかやりにくいところではあります。世界各国では、再開できた時を目指して PR はどんどん行っている状況ですので、都としてもタイミングを見ながら、特に来年に向けては五輪もありますので、東京の存在感を世界に示さないといけないと思っています。

旅行業協会や旅行業の方々からも、インバウンドをぜひ積極的に PR やってほしいという要望も受けていますので、時間はかかるでしょうが、戻ることを期待して、その時に東京が忘れられないようにというのは大事な視点かなと思っています。

(事務局)

マイクロツーリズム、地域を楽しむという視点で、私などですと、短絡的に「魅力的なマップを作る」などと思ってしまうのですが、「地域の方が、地域を楽しむ」という文脈の中でのグッドアイデアなどございますか。

(E 委員)

元々そうでなければいけないというか、ブランド作りの話にも近づくが、地域ごとで特異性とか個性とか、優位性が何かを、自分たちが、外の人たちの力も使いながら、それが場合によってはなくなりかけてしまうのをちゃんと守っていこう。例えば、伝統工芸、伝統芸能、祭りあるいは古

い昭和の施設や街並みなど、そういったことを継続的な、持続可能な形でリデザインしていこうとか、自分たちのまちの価値というものを規定して、継承していくソーシャルな支持というか。

すごく今は、ネットの5Gとかで社会課題を解決しようとか、オンラインをどう使うかというデジタル系の新しいことやっていく、切磋琢磨やっていくことと、あとはエモい、エモーショナルな、今は新型コロナ、災害なども多くなっていて、地域の分断が多くなっていく中で、多様性を認め合うようなことをやっていくようなムーブメントも支持されるのかなと。そういったものを盛り込んだメニューをつくるといいのかなと。

知り合いが、ローカルダイバーというコンテンツを作って、地域のキーマンが10人くらいの人を招いて、地域の暮らし方、良さを体験してもらおうという、新しい地域メニューを作ろうとする方がいて、そういったことも一つ今の時代なのかなと思っています。

(会長)

色々キーワードが出てきまして、今後もアイデアを仕込んでいただければと思います。

(F委員)

今回話に出なかったのですが、非常に大事なきやいけないであろうと思っていますのは、スピード感を上げていく必要があるのを非常に感じています。変化があったときそれに合わせて、今までやってきたことをそこにあわせて、やることを変えていくのか、新しいことをやっていくのか、というときに、これまでにやってきたことを実現させるときの3倍くらいでやらなきゃいけないのかなと感じました。変化が大きいのです。

(会長)

スピード感をもってやりたいと思います。それでは、次回について、2月くらいでしょうか。

(事務局)

この会議、年2回開催したいとお伝えしましたが、2月初旬開催を考えています。日程調整ができ次第改めて本日の議事録などと合わせてお知らせいたします。

(会長)

次回はまず、こちらの進捗状況のチェックと、落ち着いたら数値のところを専門家にご意見をいただくということですが、そのあたり詰めさせていただいてご報告いたします。